

令和7年度フィールドワーク

宮島学センターでは、学生とともに宮島を訪れ、学びを深めるフィールドワークを実施しています。

1 厳島神社管絃祭 ちょうちん作りボランティア

日時: 令和7年7月11日(金)(旧暦6月17日)
15時40分～21時

参加者: 15名(学生11名〈いずれも地域創生学部〉、
教職員4名)

このフィールドワークでは、宮島観光協会が主催する管絃祭ちょうちん作りに、本学の学生と教職員がボランティアとして参加しました。



当日はまず、宮島観光協会が主催する「あなたも平安気分」の受付や誘導のボランティアに参加しました。

船上では、船附洋子さんによる解説を聞きながら、御座船の航行を見学しました。

18時30分からは、長浜神社前に移動して、宮島学園(廿日市市立宮島小中学校)の児童・生徒とともに1000個のちょうちんを作成しました。また、作成したちょうちんを手に、長浜から厳島神社入口までの「ちょうちん行列」にも参加しました。

2 厳島神社の歴史と文化～厳島神社・宝物館・宮島学センターパネル展示見学～

日時: 令和7年11月8日(土) 13時～16時
参加者: 21名(学生16名〈いずれも地域創生学部〉、
教員5名)

このフィールドワークでは、厳島神社と宝物館、そして本センターが宮島で開催したパネル展示「浮世絵で学ぶ厳島神社の管絃祭」を見学しました。

厳島神社では、藤井幹也権禰宜に社殿の建築様式について、宝物館では恵美千鶴子学芸員に「平家納経」副本をはじめとする御宝物についてご案内いただきました。

また、このフィールドワークでは、宇野健准教授の研究室で卒論研究に取り組む瀬田茉那美さん(地域産業コース情報分野4年)が開発中の「宮島フィールドワーク学習支援アプリ」を利用し、「メモ機能」やクイズを活用しながら学修しました。

アプリの「メモ機能」に寄せられた学生の感想には、「現地で(厳島神社の)建築の特徴や自然との調和を感じ、平安時代の美意識や日本人の自然観を体感することができた」とありました。



建築様式について学ぶ様子

令和7年度宮島学センター企画展示 「浮世絵で学ぶ厳島神社の管絃祭」

本センターでは、宮島の歴史や文化に関する古文書、浮世絵、絵図、絵はがき等を収集し、教育・研究に活用しています。令和3年度からは、一般社団法人宮島観光協会との共催で本センターの所蔵資料と研究成果を紹介するパネル展示を

実施しています。

令和7年8月10日（旧暦閏6月17日）、厳島神社では38年ぶりに「居管絃祭」が執り行われました。この機会に改めて管絃祭や居管絃祭の魅力に触れることを目的として、今年度の展示テーマは「浮世絵で学ぶ厳島神社の管絃祭」としました。
期間：令和7年11月7日（金）～12月18日（木）
会場：宮島表参道商店街TOTO宮島おもてなし
トイレ2階観光情報スペース

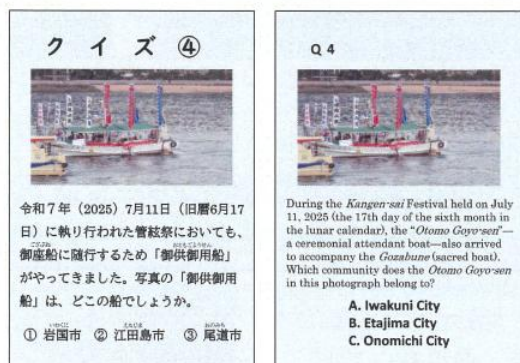


学生がデザインした展示チラシ

この展示は、学芸員養成プログラムのうち「博物館展示論」（担当：大知徳子特命講師）を履修する学生4名（地域文化コース3年生の賤原杏実さん、寺田紫音さん、松本朱音さん、三宅晴さん）とともに原案を作成しました。

展示パネルには日本語のみならず、英語キャプションも添付しました。英語翻訳は馬本勉教授によるものです。

また、地域文化コース4年生の滝田怜さんとともに、管絃祭に関するクイズを作成して会場に設置しました。滝田さんは、杉山聖子准教授のゼミで、江田島市や安芸高田市など県内各地で執り行われる管絃祭に関する卒論に取り組んでいます。



会場に設置したクイズ（日本語版／英語版）

この展示には、延べ1031名の方にご来場いただきました。



解説をする滝田さんの様子



令和7年度の「宮島学」関係科目

今年度開講した「宮島学」関係科目は5科目です。

1 宮島学

（地域文化コース2年次配当科目）

開講期間：第3クォーター金曜日1・2コマ

授業の形態：対面授業

履修学生：53名

授業日程と内容			
1	9/26	「宮島学」について（初回ガイダンス）	大知徳子
2	9/26	厳島神社の歴史(1 厳島神社の祭)	大知徳子
3	10/3	厳島神社の歴史(2 厳島神社の内侍)	大知徳子
4	10/3	特別授業(厳島神社の内侍について)	中川瑛梨 (授業内講師)
5	10/10	『平家物語』に描かれる厳島(1)	目黒将史
6	10/10	『平家物語』に描かれる厳島(2)	目黒将史
7	10/17	英語で伝える宮島(1) 明治期に訪れた外国人の見た宮島	馬本 勉
8	10/17	厳島神社の歴史(3 大鳥居)	大知徳子
9	10/24	英語で伝える宮島(2) 明治・大正期の英文ガイドブックから	馬本 勉
10	10/24	「孫文」を通して見る宮島	工藤卓司
11	10/31	宮島の歴史資料を楽しむ(1)	大知徳子
12	10/31	宮島の歴史資料を楽しむ(2)	大知徳子
13	11/7	観光問題解決のためのITの活用と宮島アプリの開発(1)	宇野 健
14	11/7	観光問題解決のためのITの活用と宮島アプリの開発(2)	宇野 健
15	11/14	「宮島学」まとめ(グループワーク・グループ発表)	—

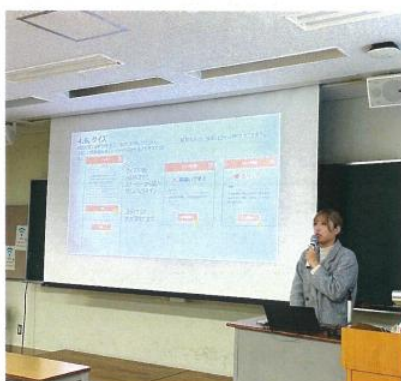
第4回は、授業内講師として厳島神社の中川瑛梨さんをお招きしました。中川さんは本学の卒業生です。厳島神社の魅力についてご体験をふまえてお話しいただきました。



中川さんによる授業

第11・12回（10月31日）には、講義室内に展示ブースを設け、宮島学センターが所蔵する歴史資料（浮世絵や絵図など）を鑑賞しながら学修しました。歴史資料の解説は、「博物館展示論」を履修した学生4名（地域文化コース4年生の崎山叶夢さん、山野利佑子さん、3年生の寺田紫音さん、笠置彩帆さん）も行いました。

第13・14回（11月7日）は、宇野健准教授のゼミで卒業研究に取り組む瀬田茉那美さん（地域産業コース情報分野4年）が、開発中の「宮島フィールドワーク学習支援アプリ」について紹介しました。受講者は実際にアプリを操作してクイズに挑戦しながら、「管絃祭」について学びを深めました。



アプリの解説をする瀬田茉那美さん
右図はアプリの画面



2 宮島観光学入門（英語）

（全学共通教育「地域教養ゼミナールC」（2年次～））

開講期間：第3クォーター（集中講義）

授業形態：対面授業（広島キャンパス・3日間）

およびフィールドワーク（宮島・2日間）

担当教員：馬本 勉、Richard Weber（非常勤講師）

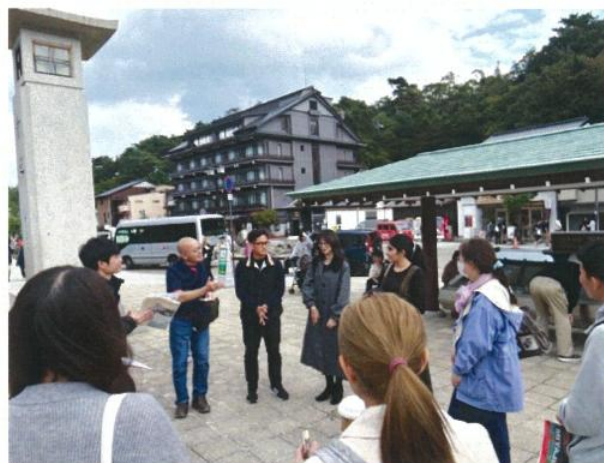
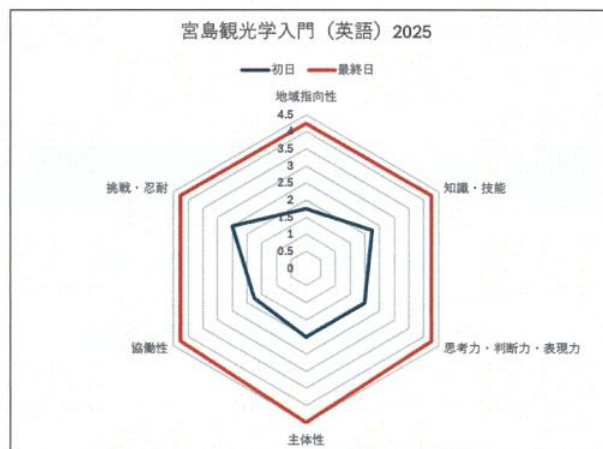
履修学生：4名

授業日程と内容		
日	実施日	内 容
1	10 / 5	10:40-16:10 [3コマ] 英語演習／宮島についての事前学習
2	10 / 12	10:40-16:10 [3コマ] フィールドワーク①（ガイド予定箇所実地見学）
3	10 / 26	10:40-16:10 [3コマ] バーチャルツアー（模擬ガイド演習）
4	11 / 2	10:40-16:10 [3コマ] フィールドワーク②（英語ガイド実践演習）
5	11 / 9	10:40-16:10 [3コマ] フィールドワークの振り返り 英語ガイドプレゼンテーション



フィールドワーク①（10月12日）では、宮島でのガイド予定箇所の実地見学を行い、同②（11月2日）では叡啓大学の留学生3名に対する英語ガイド実践演習を行いました。

集中講義初日と最終日に行った科目ルブリック自己評価（6観点、各5段階評価）の結果から、履修学生が授業を通じて成長を実感している様子が見て取れました。



集中講義期間中、のべ8名の本学教員からピアレビューを受けることができました。最終回に寄せられたコメントの一部を紹介します。

「当初は片言でしか英語を話せなかった学生たちが、このゼミナールを通して、自分で考えた英文をすらすらと話し、堂々とガイドできるようになっていたことは本当に素晴らしいことです。特に、フィールドワークで外国人留学生と1対1で英語で対話し、コミュニケーションをとる姿は、生き生きとしていて印象的でした。」

本授業には、留学生がガイドされる側として、また、かつての履修生がアドバイザーとして参画し、さらに先取り履修の高校生も受け入れるなど、授業そのものが「多文化交流」を実践する場となっています。この点は、授業者の期待を上回る様々な相乗効果を生み出していると感じます。今年度得たピアレビューを次年度に反映させ、より教育効果を向上させるよう、工夫を重ねていきます。

(馬本 勉)

3 宮島学（歴史資料の活用）

(全学共通教育「地域教養ゼミナールB」(2年次～))

開講期間：第3クォーター（集中講義）

授業形態：対面授業

担当教員：大知徳子

履修学生：5名

授業日程と内容		
日	実施日	内 容
1	9/21	10:40-16:10 [3コマ] 史料の取扱い方法や清掃・データ整理を体験
2	9/27	10:40-16:10 [3コマ] 史料の取扱い方法や清掃・データ整理を体験
3	10/4	10:40-16:10 [3コマ] 史料の活用方法について検討
4	10/19	10:40-16:10 [3コマ] 史料の活用方法について検討
5	11/1	10:40-16:10 [3コマ] 史料の活用方法に関するプレゼンテーション

この科目は、今年度新たに開講しました。宮島学センターが所蔵する歴史資料（古文書、古典籍、絵図、絵はがき）の取扱いや清掃方法について学んだ上で、作品の魅力を活用する方法についてプレゼンテーションを行いました。

4 宮島学（文化観光の提案）

(全学共通教育「地域教養ゼミナールA」(2年次～))

開講期間：第4クォーター（集中講義）

授業形態：対面授業（広島キャンパス・3日間）

およびフィールドワーク（宮島・2日間）

担当教員：大知徳子

履修学生：23名

授業日程と内容		
日	実施日	内 容
1	11/29	10:40-16:10 [3コマ] 宮島に関する情報収集、ガイドポイントの整理
2	12/6	10:40-16:10 [3コマ] 宮島でのフィールドワーク
3	12/20	10:40-16:10 [3コマ] 宮島に関する情報収集、ガイドポイントの整理
4	1/24	10:40-16:10 [3コマ] 学内におけるガイド演習
5	1/31	10:40-16:10 [3コマ] 宮島でのガイド実践

この科目は、今年度新たに開講しました。宮島の歴史や文化に関する知識を習得し、魅力的な方法で発信することをテーマに日本語でガイド実践を行います。

12月6日に行ったフィールドワークでは、宮島の上卿屋敷（林家住宅）にも訪れました。国指定重要文化財となっている家屋の保存や継承、上卿職の役割について、出先洋一さんと出先泰子さんにご教示いただきました。学生たちは、フィールドワークで学んだ現地の様子をふまえて、令和8年1月31日にガイド実践を行いました。

5 宮島観光学（英語）

(地域文化コース3年次配当科目)

開講期間：第4クォーター（集中講義）

授業形態：対面授業（広島キャンパス・4日間）

およびフィールドワーク（宮島・1日間）

担当教員：Richard Weber（非常勤講師）

履修学生：5名

授業日程と内容		
日	実施日	内 容
1	11/3	10:40-16:10 [3コマ] 宮島バーチャルガイドツアー①（英語）
2	12/7	10:40-16:10 [3コマ] 宮島バーチャルガイドツアー②（英語）
3	12/14	10:40-16:10 [3コマ] 宮島でのフィールドワーク
4	1/11	10:40-16:10 [3コマ] ガイド演習①（英語）
5	1/25	10:40-16:10 [3コマ] ガイド演習②（英語）、振り返り



12月14日には宮島でフィールドワークを行いました。非常勤講師のウェバー氏が、誓真釣井や要害山などの名所について、英語で案内しました。また、御笠浜では大鳥居について英語で魅力的に解説するため、ガイド演習を行いました。



令和7年度宮島学センター公開講座

廿日市市教育委員会、宮島まちづくり交流センターと共催して、etto宮島交流館（宮島まちづくり交流センター、廿日市市宮島町412）において、以下の公開講座を実施しました。

第1回

「明治・大正期の英文ガイドブックで紹介された宮島」、意見交換会

日時：令和7年9月3日（水）14時30分～17時

講師：馬本勉教授

受講者：45名

第2回

「毛利氏の厳島信仰と管絃祭」

日時：令和7年12月17日（水）14時30分～16時

講師：秋山伸隆名誉教授（宮島学センター学外協力員）

受講者：91名

第3回（予定）

「戦国期における厳島社の造営 一大願寺道本の活動一」

日時：令和8年2月18日（水）14時30分～16時

講師：大知徳子特命講師

また、尾道市立大学と共催し、次の講座を予定しています。

「尾道×宮島ミニ歴史講座」

日時：令和8年3月28日（土）13時30分～15時

会場：尾道商業会議所記念館2階議場

（尾道市土堂一丁目8-8）

講師：森本幾子教授（尾道市立大学経済情報学部）、大知徳子特命講師

研究余禄⑰

管絃祭と居管絃祭

管絃祭は、旧暦の6月17日に執り行われる厳島神社最大の祭です。厳島神社の御祭神を乗せた船（御座船）が海上を航行し、対岸の地御前神社、宮島の長浜神社と大元神社に渡り、深夜に厳島神社へ還御します。

「旧暦」は、季節と暦の上でバランスが崩れてしまうことを防ぐために「閏月」を設けて、1年を13ヶ月として調整することがあります。

「閏6月」がある年は、旧暦6月17日に通常の管絃祭を行い、翌月の閏6月17日に「居管絃祭」（居ながらの管絃）が執り行われます。

「居管絃祭」では、御本社前の高舞台に船形3艘を取り付け、御座船に似せた屋形を設けて管絃が奏されます。通常の管絃祭と大きく異なる点は、次の2つです。

- (1) 御鳳輦は屋形に移御しないこと。
- (2) 屋形の外側、高欄との間に十二か月を配した造花を飾ること。

令和7年（2025）は閏6月がある年で、旧暦6月17日（新暦8月10日）には「居管絃祭」が執り行われました。前は昭和62年（1987）8月11日で、38年ぶりの貴重な機会となりました。

当日は災害級の大雨となりましたが、18時より祭典、19時より管絃がつながなく執り行われました。次に「閏6月17日」にあたるのは令和18年（2036）8月8日です。（大知徳子）



居管絃祭／令和7年8月10日、温啓亨撮影

全国厳島神社参詣記⑰

参拝日時：2025年11月

所在地：兵庫県神戸市兵庫区永沢町4-4-21

兵庫県神戸市にある厳島神社は、治承4年(1180)福原遷都の際、平清盛が平家一門の氏神として深く信仰する安芸国厳島神社をこの地に勧請したことが由来です。地域の人々から「兵庫の弁天さん」や「お洒落弁天さん」とよばれ、古くから親しまれてきました。また、福原京の周り七つの地に厳島神社を勧請したので、花隈、佐比江、西宮内、夢野、真野、渦輪と合わせて兵庫七弁天と呼ばれていますが、他の弁天社が神社や寺と併祀しているのに対して当社のみが独立しており、渦輪にあった弁天社を合祀して存続されてきました。

当社にはこんな伝説も残されています。清盛公が兵庫の港に築島を築こうとした際、ある夜の夢に天女が現われ、「私は安芸国厳島明神である。この海を暴風雨から守り、汝の志を能く成就せしめんが為に来たのである。篤く信仰して必ず疑うことなかれ」とお告げになり、兵庫の港の守り神として明神を祀ることになったとのこと。

また、当社は女性の守り神である淡島神が祭られることから、江戸時代より事始めを意味する事八日の2月8日に「針供養」が行われています。「針供養」とは、折れたり、曲がったり、さびたりして使えなくなった縫い針を供養する行事で、訪れた人たちが祭壇に設けられたこんにゃくに使えなくなった手縫い針や釣り針を刺していきます。「針供養」の神事には、日本和裁士会兵庫県支部の会員や地元の婦人会など多くの参拝者が訪れ、これまでの感謝の気持ちをこめて裁縫の上達を願うそうです。

(植村広美)



厳島神社の鳥居



厳島神社の拝殿



施設見学の受け入れ

令和7年7月18日、山陽女学園高等部特進コースの皆さんが本学を訪問されました(高校1～3年生15名と引率教員)。同校は「総合的な探究の時間」の一環として、「宮島探究」に取り組んでおられます。

当日は、本学が所蔵する宮島を描いた浮世絵を展示し、鑑賞していただきました。この展示の準備と解説は、「博物館展示論」を履修する学生5名(地域文化コース4年生の崎山叶夢さん、3年生の伊東昌希さん、寺田紫音さん、西本杏さん、山本りなさん)が行いました。

また、馬本教授が「明治以降の宮島」をテーマに英文資料を中心に展示し、解説しました。



展示解説をする伊東昌希さん

編集後記

宮島学センター通信第17号をお届けします。

令和8年2月11日(水)から3月1日(日)まで、はつかいち美術ギャラリー(廿日市市下平良一丁目11-1)で宮島学センター所蔵資料展「宮島を描いた浮世絵」を開催します。この企画展については、次号(第18号)で報告します。

編集・発行

宮島学センター通信 第17号

令和8年3月1日発行

県立広島大学宮島学センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号

TEL.082-251-9534(地域連携センター内)

E-mail: miyajima@pu-hiroshima.ac.jp

ホームページ: <http://www.pu-hiroshima.ac.jp/>

宮島学センターデジタルアーカイブサイト

<http://mjp.pu-hiroshima.ac.jp/mjarchive/>